



「ひがしひろしま 農業GUIDE 2023」

保存版

Higashihiroshima
Agricultural
guide book
vol.3



変わる「農業」のカタチ

「農業」と聞いて、みなさんはどんなことをイメージするでしょうか。

体力がいる仕事？朝が早い？自然が相手なので大変？など人によって様々だと思います。

今、農業のカタチが変わってきていることをご存じでしょうか。

若手が農業をするために移住してきたり、農福連携で障がい者等が農業で働くことで、就労や生きがいづくりの場となり、担い手不足の確保につながるような取り組みが東広島市内で行われています。

新型コロナウイルスも今年の5月には5類感染症に引き下げられることが政府によって発表されました。私たちの生活スタイルが変わる今、農業自体も変革する時期にさしかかっているのかも知れません。

土を触り、風を感じ、太陽の光を浴びながら季節を感じる…そんな農業をはじめてみませんか。

INDEX

P.2

農業するなら東広島

東広島市の持つ高いポテンシャル

P.3

安芸津町の甲斐農園

甲斐直樹さんインタビュー

P.4・5

広がる農福連携

東広島で広がる農福連携のカタチを紹介

P.6

新規就農者の作物の選び方

市場動向や出荷条件、作物の品種、産直市の状況

P.7

東広島市の農作物紹介

市内で作られている農産物と生産者さんを紹介

P.8

園芸センターを活用しよう

見学可能な施設案内・志和アグリ図書館の案内



就農するなら東広島



東広島市には、農業や暮らしにいいもの、いいことがたくさん。そんな東広島の魅力をちよっと紹介。今回は、安芸津町にスポットをあててみました。

東広島市は、北部に緑豊かな中国山地が連なり、南部に陽光輝く瀬戸内海、県内最大の面積をもつ西条盆地、中部から南西部にかけては比較的平地に恵まれ、稲作を基幹としています。がら、園芸や畜産など地域特性を活かした多彩な農業が展開されています。



正福寺からの風景



馬鈴しょ畑



安芸津港の風景

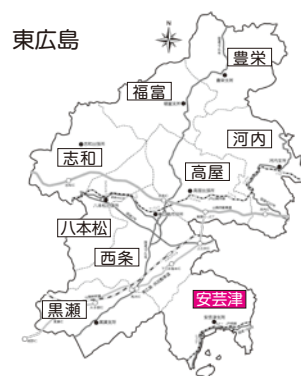
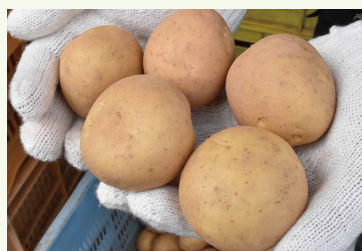
★ 安芸津町の魅力

カキ筏が浮かぶ穏やかな瀬戸内海を一望でき、天気によければ四国の山々まで見渡せる安芸津町。

年間を通して温暖な気候なので、全国的にも有名な赤土で育つ「マル赤馬鈴しょ（じゃがいも）」を春・秋と二期作で栽培しています。

この特徴は、皮ごと味わえ手間いらずで、熱を加えるだけでなんともいえない甘みやうまみを感じ

られ、一度食べると忘れられないおいしさです。東広島市のふるさと寄付金（納税）の返礼品にもなっています。



簡単レンジで「マル赤馬鈴しょ」レシピ

材料(2人分)

- じゃがいも…
中(100~120g程度)
4個
- 調味料…
・塩+黒胡椒+オリーブオイル
・チーズ+イタリアンパセリ
・タラコマヨネーズ+海苔
・醤油+バター



作り方

- ①じゃがいもに半分ほどの切り込みを入れ、ラップで密封し、レンジで加熱します。(目安:10分、600W)
- ②じゃがいもを開きお皿に広げ、お好みのトッピングを載せます。
- ③再度加熱して仕上げる。(目安:1分、600W)
- ④串などを差してみて火が通っていれば完成です。

安芸津の「マル赤馬鈴しょ」販売

ふれあい市 安芸津店(広島県東広島市安芸津町風早647-8)



瀬戸内海に面したJR呉線風早駅にほど近く、国道185号線沿いにある農作物直売所。ここで、安芸津の特産品である、春・秋の「マル赤馬鈴しょ」をはじめ、季節の新鮮なピワ、ブドウ、イチジク、かんきつ類、花、魚介類、地酒等が販売されています。

是非、安芸津の「マル赤馬鈴しょ」を味わってみてください。



甲斐農園 甲斐 直樹 代表



見渡すかぎり甲斐さんの農園

「ひがしひろしま 農業GUIDE 2023」 Higashihiroshima Agricultural guide book

INTERVIEW

瀬戸内「安芸津」の

甲斐農園

株式会社 甲斐農園

東広島市安芸津町木谷5237-1

就農10年目

人と地域と作物を結ぶ農園に

新規就農者に聞く！

東広島市安芸津町でかんきつ類などの栽培や加工品の販売に情熱を注ぐ甲斐直樹さん。千葉県出身の甲斐さんが同町に移住した理由や農業の魅力について話を聞きました。

―なぜ農業を始めたのうと思われたのですか？

大学時代は工学部でエンジニアを目指していましたが、ある時、農園のアルバイトをしたことがターニングポイントでした。手を掛ければ掛けた分それに応えてくれる野菜や果物の作物に心を動かされ、「これだ」と思い農業に従事することを決意しました。答えがないところに強く魅力を感じ

ました。

―農地を安芸津町に決めたきっかけを教えてください。

―農地を安芸津町に決めたきっかけを教えてください。

全国各地で農業の経験を含め、農業研修生として安芸津町に来たのがきっかけです。JA広島果実連がかんきつ農業の担い手を育成する広島県果樹農業振興対策センターの一期生として呉市蒲刈で栽培の基礎を学びました。農地の確保は、高齢の農家が大切に守ってきた果樹園とジャガイモ畑などを約1ヘクタール引き継ぎ、就農をはじめました。今では、同

じように別の農家から畑や果樹園を利用してほしいという声をかけていただき、3ヘクタールまで拡大しています。

―農業をしてよかったことは、どのようなことですか。

地元の人への応援がすごく励みになっています。試行錯誤をしている時には相談にのってもらえるし、その「コミュニティ」の存在がとても有難いです。農業は自分にとって生きがいです。

―甲斐農園で育てている農産物にはどのようなものがありますか。

青島かんや不知火、レモン、マル赤馬鈴しょを作っています。また、加工品としてみかんジュース「無添加みかん100%」「じゃがいもレモンかりんとう」「瀬戸内レモンチョコレート」も作っています。

―それだけの野菜を



収穫した採れたてのレモン

育てるのは苦労も多いと思うのですが。

現在、4人のスタッフで作業をしています。昨年に法人化しました。自然相手なので、天候が悪く思ったように育たないこともあります。でも、私たちはプロなので、原因を追求して作り続ける使命があると思っています。

―農福連携も行っているとのことでした。

安芸津町の小規模授産施設つばさ連携して、農作業を手伝ってもらっています。また、ノウフクマルシェで農

園の農作物を販売してもらっています。人材の面でも、大変助かっています。



「不知火」を箱詰めする甲斐さん

―甲斐さんの元気の源は何ですか。

やはり、家族の存在だと思います。妻と一緒に働いてくれていますし、子どもたちも自然に囲まれ、地域の人に見守られながらのびのびと成長しています。子どもたちが安芸津町に誇りを持てるような地域にしていきたいです。また、収穫時には、千葉から両親が手伝い

にきてくれるので、本当に感謝しています。

―今後の展望は。

安芸津町は自分を育ててくれた第二の故郷だと思っています。地域の未来、農業の活性化に向けて農地を守り、大切に作物を育て安芸津町に恩返しをしたいです。今後は地域の中心となるような農業の担い手となり、人と地域と作物をつなぐような農園にしていきたいです。若手の生産者とも意見交換をし、合って農業をもっと高めていきたいです。

―最後に、就農を考えている人にメッセージをお願いします。

農業は奥が深く、やりがいがあり、とても楽しい職業です。決断したら、一日でも早く取り掛かることをおすすめします。

取材を終えて



学生ライター／広島大学1年 東 慧佑 さん

農業について無知だった私にとって実際に働いている方のお話を伺ったり、壮大な農園を見学したりという体験は大変貴重で新鮮でした。雄大な甲斐農園の様子などを体感することができ、おいしい野菜の裏には生産者、販売者の絶え間ない尽力があることをひしひしと感じました。

私たちの健康で幸せな生活には野菜の存在が欠かせません。一人でも多くの若者に農業の魅力に気付いて欲しいと強く感じました。

農福連携の

東広島で広がる「ノウフク」の取り組みとこれから

安心できる作業環境を

ノウフク連携 東広島でトイレラボ

上

《ザ・ウィークリー・プレスネット12/15号 転載記事》



農林水産省や企業などをつくる「農福連携等応援コンソーシアム」はノウ（自然、農林水産業）フク（人、福祉）連携の課題解決プロジェクト「ノウフク・ラボ」の1つである。安心できる作業環境をつくる「トイレラボ」を、東広島市で開催しました。

トイレラボは、障害や意見交換会で、福祉のある人が畑で作業する際、バリアフリーのトイレを確保することが難しいという課題の解決に向けた現場視察で講演会と意見交換会

TOKIOの城島茂さん参加

フィールドワークと意見交換会には、ノウフクアンバサダーを務めるTOKIOの城島茂さん（52）も参加。農業体験やモバイルトイレの試乗体験などを行いました。

モバイルトイレはトヨタ自動車が開発した移動式バリアフリートイレ。自動車でけん引して運べ、室内には手すり付きの大便器やオ



アシエイト・ファーム（石村晃一社長）のほ場（河内町戸野）でフィールドワークがありました。



下

ストメイト対応の流しなどが設置されています。試乗体験をした城島さんは「空き家やトイレなど、日本が抱える農村地域の課題を広く知ってもらい、モバイルトイレの導入に向けて手助けができれば」と話していました。

「ノウフク・ラボ」は、2020年にスタート。トイレ、テクノロジ、販路拡大をテーマにワークセッションなどを行い、社会課題の解決や、新たな価値創造を図っています。

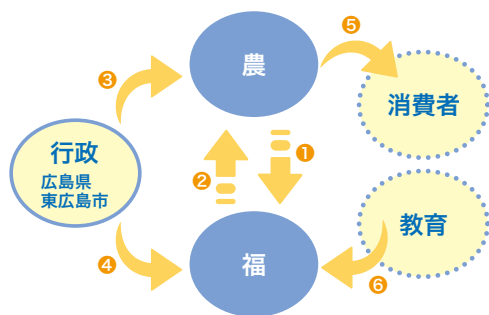
上/トヨタのスタッフから説明を受けながらモバイルトイレを見学する城島さん（左）

中/ファームのメンバーとタマネギを植える城島さん（右）

下/モバイルトイレの室内。オストメイト対応流しや、多目的に使える大型ベッドも設置されている

問い合わせ/東広島市障害福祉課 TEL082-420-0180(直通)

- ① 働く場と新たな収入源を提供
- ② 働き手の提供
- ③ 福祉人材の実力値を周知
- ④ コーディネート
- ⑤ 付加価値の創出（農福の地産地消）
- ⑥ 新しい就労先（農業）を定着化



各ステークホルダーの関係相関図

農福連携とは

農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

農福連携に取り組むことで、障がい者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

令和4年度スタートした新たな取り組み

東広島市役所本庁舎2階協働スペースにおいて、令和4年6月から「ノウフクマルシェ」を始めました。

これは農福連携によって生産された農産物や、農福連携に関わる事業所が普段どのような生産活動をしているのか販売を通じて広く知ってもらうための活動で、市内の認定農業者等から作業を請け負った市内の福祉事業所（就労継続支援事業所）が携わった場合や、自事業所において農業に取り組んでいる場合等、収穫物となる野菜や日頃から取り組んでいる手工芸品等がある事業所が出店する催しです。

また、令和4年10月には、東広島市と（株）イズミによる地域活性化包括連携協定を締結し、農福連携事業にも協力をいただけることとなりました。これに

ノウフクマルシェ



より11月に市役所以外では初となるゆめタウン東広島店4階でノウフクマルシェを開催することができました。（前日にはRCCラジオ「おひるーな」のラジオカーのコーナーで生放送に出演して宣伝しました。

今後毎月開催を目指し活動を行います。ノウフクマルシェの開催時間は、市役所・ゆめタウンいずれも11時～14時を予定しています。東広島市の広報紙、エフエム東広島、ライン、ツイッター、西条駅デジタル表示版等で開催日等をご確認ください。

問い合わせ/東広島市障害福祉課 TEL082-420-0180(直通)

東広島市農福連携推進補助金制度のマッチングと補助金について

東広島市内の認定農業者や法人等が、市内の福祉事業所（就労継続支援事業所）に対して仕事を依頼し、その支払われた作業工賃の1/2以内（千円未満切り捨て）の額を補助します。これには、事前に申請手続きが必要です。福祉事業所に仕事を依頼されたい場合は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ/東広島市農林水産課 TEL082-420-0939(直通)
障害福祉課 TEL082-420-0180(直通)

【対象】

・市内に所在する認定農業者、認定新規就農者、集落農場型農業生産法人及び複数の集落農場型農業生産法人が組織する法人（以下「認定農業者等」という）

【補助率】

・予算の範囲内で補助対象経費の2分の1以内の額（千円未満の端数は切り捨て）

【申請要件】

- (1) 市内に所在する認定農業者等であること。
- (2) 業務発注以前に就労継続支援事業者との間で農業に関する労務の提供契約を締結していること。
なお、契約を締結している就労継続支援事業者と認定農業者等との間に役員の重複がないこと。
- (3) (2) の契約に基づき、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの間を納期とした業務を就労継続支援事業者に発注していること。
- (4) 市税の滞納がないこと。

【スキーム図】



取り組みを紹介

新規就農者向けの作物の選び方 市場で求められる野菜情報

市場動向



JA全農ひろしまでは、県内産の野菜や花きの市場出荷について、販売品目別に単価・重量、累計金額を集計しています。特定の地域における不作や、品種ごとの人気などが売行きを左右します。市場の動向を知りたいときは、お近くのJAにお問い合わせください。

また、「耕畜連携資源循環ブランド3・Rさんあーる」も展開中です。農業においても環境保全や持続可能性は大きな課題ですので、価値を付加できるのはもちろん、通常よりも有利に販売することも可能です。県内複数のJA産直市に設けた特設売り場でも人気上昇中です。3・Rブランドもぜひご利用ください。

全国農業協同組合連合会 広島県本部 園芸部 園芸課 橋岡由夫さん

出荷条件



東広島青果は、野菜や果物などを市場のセリにかけて委託販売をしている企業です。言わば生産者と量販店をつなぐパイプのような役割を担っています。出荷するには必ず当社に登録してもらう必要があります。生産者の方がどんな農産物をどれだけつくるか、とができるのを打ち合わせさせていただきます。その後、量販店に向けて農作物を仕入れてもらうように価格交渉とPRをしていきます。商品が売れるために店内に生産者のポップを貼ったり、目に留まりやすい陳列をしたりして協力しています。

生産者の思いが詰まった農作物を安定して市場へ流せるよう努力を続けています。

東広島青果株式会社 取締役 山本知則さん

作物の品種



広島中央農業協同組合では販売計画を立て、各地区と連携をとりながら農業振興や農業の指導などを行っています。現在、ビニールハウスや肥料など資材のコストは上昇しており、農業界ではなかなか厳しい状況となっています。しかしながら東広島では道の駅・産直市などの販売環境が充実しており、新たに農業を始めるとするには適した環境であると思っています。これからの農業では特においしさを追求していくことが求められると思います。JAではSNSなどで積極的に情報発信することで、おいしい野菜を販売してリピートのお客さんを増やし、地産地消を展開していきたいと思っています。

広島中央農業協同組合 営農販売部 営農販売課 課長 西田聡さん

※令和5年4月～名称が「JAひろしま」に変わります。

相談 新規就農者育成総合対策

経営発展支援事業・経営開始資金 交付金

次世代を担う農業者の育成・確保に向け、農林水産省の新規就農者育成総合対策の交付金として機械・施設等の導入のための「経営発展支援事業」、就農直後の経営確立を支援する「経営開始資金」を考えている新規就農希望者は、早めに園芸センターへご相談ください。



相談

農業をはじめたい方 相談窓口

農業を始めたいと相談に来られてから、何をつくれればよいのか、栽培技術はどうやって習得するのか、農地はどうするのかなど、たくさんの課題を知ることになります。東広島市園芸センターでは、職業として農業を始められる方の相談窓口をしています。

お問い合わせ

☎082-433-4411(直)

事前に電話で予約してご来園ください。

随時相談
受付中

園芸センターに
ご相談ください！

福原農園 福原 由美さん

ミニトマト

ほうれんそう

平成28年に、東広島市園芸センターの研修を受けました。

現在は豊栄町で、水稲3.52ha（ヘクタール）、ホウレンソウ、ミニトマト等の施設野菜28a（アール）、そのほか季節の露地野菜も作っています。

昨年からは、夫婦で作業をしています。



東広島市の 農作物紹介

輝き続ける5人の生産者

たかやのぶどう 教蓮 健治さん

15品種のぶどう

私達のぶどう園は2013年に始めた新しいぶどう園です。安くするため、自分でぶどう棚や販売所を建てました。その販売所で、ほとんどのぶどうをお客さんと交流しながら販売しています。そんな手作り感やアットホームさがお客さんに好評なぶどう園です。



フラワーグループ 六日市 博さん

トルコギキョウ

トルコギキョウをはじめて20年が経ちました。1年中ハウス（20a）で、白・ピンク・紫などの一重咲や八重咲が色とりどりに咲いています。広島や東京の市場に出荷するほか、市内では産直市の店頭に並んでおり、売り先が決まっていますので、安心して生産ができます。



ふもとや 麓 清志さん 陽子さん

志和の盆地野菜

志和町で少量多品目の野菜と米を農業・化学肥料を使わずに育てています。農業は自然相手なので思うようにいかないことも多いですが、旬の時期に食べる野菜の美味しさは格別です。日々の様子をInstagram（@fumotoya）で発信しています。



小谷 向井農園 向井 俊貴さん

白ネギ

ナス

かぼちゃ

東広島市高屋町小谷で2017年に就農しました。今では、白ネギを1.3ha、ナス10a、かぼちゃを50a栽培しています。農作物には土づくりが大切と考え、緑肥や植物性堆肥などを使って栽培しています。次世代に農業の魅力を伝え、地域の農業や農地を守ってまいります。



申込 令和5年度新事業

人口減少地域の新規就農者支援 支援

人口減少地域で、地域農業の中核を担う人材を育成することを目的として、**子育て世帯の新規就農を支援する**助成制度を新設します。

- 内容：人口減少地域への移住者の子どもに支援金を交付
- 対象：新規就農者育成総合対策（国事業）の交付対象者
市の指定する人口減少地域で就農する方
- 補助額等：中学生以下の子ども1人あたり10千円/月、
上限360千円/世帯

相談 令和6年度

新規就農者育成研修生 募集

令和5年8月1日（火）～12月中旬募集を予定しています。
新規就農する前に、**生産技術、経営管理**など実践的に学び、**安心して農業経営をする**ためのサポートをしています。

- ① 目標とする農業者…
農業経営基盤強化促進法に基づく認定新規就農者（農業所得250万円）
及び認定農業者（農業所得500万円）
- ② 対象年齢… 令和6（2024）年4月1日現在、
18歳以上45歳未満の人
- ③ 研修期間… 令和6年4月1日から令和8年3月31日（2年間）
※農業経験がある方は特例措置がある場合があります。

園芸センターを活用しよう!!



見学可能施設

～急な天候の変化や、外出時に遠隔制御～

環境制御機能付きビニールハウス



このハウスは、室内温度、湿度、二酸化炭素量、日射量、外気温、雨量、土壌水分量を測定。この記録と検証を行い、測定値から自動制御で換気、灌水、カーテンを開閉するものです。

また、遠隔モニタリング機器で、遠隔操作によりスマートフォンなどからモニタリングでき、高温低温障害を未然に防ぐことが出来ます。

～野菜の残さを良質な堆肥へ～

ミミズコンポスト木箱設置

園芸センターで栽培した野菜の残さを、ミミズと微生物の力で、自然に近い、良質な堆肥化をしています。



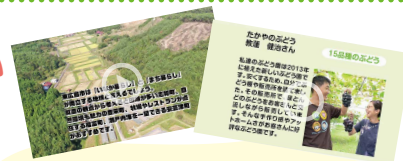
おすすめ!

農業ガイドバックナンバーをご覧ください



農業するなら東広島という視点から、新規就農者が農業を始めようと思った時、何から手を付けたいかの参考書になればと作成を始めました。

HPは
こちらから



動画配信をご覧ください。園芸センター活動や東広島市で生産されている野菜・果樹・花を生産者を紹介。

動画配信は
こちらから



志和アグリ図書館



開館時間／9:00～16:30

休館日／土曜日・日曜日・祝日

年末年始 (12/29~1/3)

図書館スタッフ出張日時／

第2・4火曜日10:00～13:00

センター内での利用はどなたでもできます。

図書館員が不在の時は本の閲覧のみ可能です。



図書館の
情報はコチラ ▶

ご不明な点は中央図書館までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先／中央図書館

TEL.082-422-9449